

九十九里浜鳥類誌関係文献目録

三沢博志¹・桑原和之²・奴賀俊光³

キーワード：シギ・チドリ類，ミュビシギ，砂浜，湿地，沖積平野

はじめに

九十九里浜は、房総半島の北東部、太平洋岸に面し、南の夷隅郡岬町太東崎から、北の海上郡飯岡町刑部岬まで、56kmにわたる弓なりの砂浜の海岸である（図1）。沿岸は、南から、岬町、一宮町、長生村、白子町、大網白里町、九十九里町、成東町、蓮沼町、横芝町、光町、野栄町、八日市場市、旭市、飯岡町の14市町村に属している（図2、3）。

この一帯は、1935（昭和10）年に九十九里県立自然公園に指定され、以後、海水浴場やレクリエーション用地として、道路整備や観光開発が進んでいった。特に、1970（昭和45）年3月に九十九里浜の観光道路として建設に着手された、長生郡一の宮町新地から山武郡九十九里町片貝に至る延長 17.3kmの有料道路（通称「波乗り道路」）は、1972（昭和47）年6月に完成し、開業した。これらの事業に伴い、九十九里浜南部一帯の湿地が減少した。

九十九里浜から太平洋へは、一宮川、南白亀川、真亀川、作田川、木戸川、栗山川などの川が注ぎ込んでいる。特に、一宮川の河口は、小規模ではあるが干潟となっており、底生生物が多く生息している。そのため、鳥類の飛来も多く、干潟や砂浜の鳥類相を保存している地域として重要である。

九十九里浜での鳥類の記録はそれほど古いものではない。現在知られている文献では、1954（昭和29）年7月14日に白子町五井海岸で捕獲され、農林省の標本となり現在は森林総合研究所に三島コレクションとして収蔵され

ているコサギの記録が最も古い報告となっている（川路ほか 2002）。写真記録としては、1960年頃から高野伸二が九十九里町片貝や一宮川河口などで、また、1965年頃から清棲幸保が一宮で撮影したものなどがある（清棲 1966, 千葉県 1976）。一宮は、1965（昭和40）年頃から早稲田大学生物同好会の継続的な観察地となり、個体数の調査も行われた。1965年9月からは日本野鳥の会東京支部の探鳥会も継続的に催されるようになった。個体数調査も、波乗り道路の開通など環境の変化から鳥類の飛来も減少したため、1978（昭和53）年までとなっている。

なお、本稿をまとめるにあっては、箕輪義隆、小川和子、柳澤紀夫の各氏から情報を提供していただいた。ここに厚く感謝の意を表す。

九十九里浜関係鳥類文献目録

1. 秋山章男. 2000a. 九十九里浜. 千葉県史料研究財団(編). 千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2—海の動物—: 76-90. 千葉県, 千葉. 九十九里浜におけるミュビシギの生態などについての概略を記述している.
2. 秋山章男. 2000b. シギ・チドリ類の採食行動（一宮川河口干潟周辺における調査）. 海洋と生物22(4): 332-339. 1985～98年の一宮川河口干潟での観察に基く、シロチドリの採食行動、ハマシギの採食行動、ミュビシギの行動や生態について記述している.

1 〒274-0063 千葉県船橋市習志野台3-3-1-503
2 〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2
3 〒299-5502 千葉県安房郡天津小湊町内浦1

船橋市中央図書館
千葉県立中央博物館
千葉大学海洋バイオシステム研究センター

3. 浅見明博. 1973. メダイチドリ. 野鳥 38(11): 口絵.
1972年9月に上総一の宮で撮影したメダイチドリの写真を掲載している.
4. 綾富美子・泉 宏子. 2001. 一宮川河口. Birder 15(5): 44-47.
干潟の鳥の探鳥地ガイド. 2000年1月~12月に一宮川河口で観察した49種の個体数も報告している.
5. バーダー編集部. 1996. 日本の鳥 1995. 108pp. 文一総合出版, 東京.
1995年10月に一宮川河口で撮影したアオアシシギの写真を掲載している.
6. バーダー編集部. 1997. 日本の鳥 1996. 107pp. 文一総合出版, 東京.
1996年9月~10月に一宮町などで撮影したオオソリハシシギ, ミユビシギの写真を掲載している.
7. バーダー編集部. 2000. 日本の鳥 1999. 107pp. 文一総合出版, 東京.
1999年5月~10月に一の宮町で撮影したヒバリ, ミユビシギの写真を掲載している.
8. バーダー編集部. 2001. 日本の鳥 2000. 108pp. 文一総合出版, 東京.
2000年5月~9月に一の宮町で撮影したダイサギ, ダイゼン, ミユビシギの写真を掲載している.
9. 千葉県. 1972. 一宮町並びに長生村海岸と周辺の野生鳥類調査・鳥類生息環境調査報告書. 31pp, 付図5枚, 付表4枚. 千葉県, 千葉.
1971年6月~1972年3月に一の宮川河口付近で観察した88種の個体数を報告している. また, 1965~1972年に記録された151種の和名リストも付す.
10. 千葉県環境部自然保護課. 1975. 干潟等概況調査報告書 1975. 57pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
1975年2月に上総一宮, 南白亀川, 真亀川, 栗山川で観察した個体数を報告している.
11. 千葉県環境部自然保護課. 1976. 干潟等概況調査報告書 1976. 68pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
1975年10月~1976年3月に一宮河口付近で観察した個体数を報告している.
12. 千葉県環境部自然保護課. 1976. 千葉県鳥類目録 昭和50年度. 134pp. 千葉県, 千葉.
1954~74年に一宮など九十九里浜で記録された130種を収録している.
13. 千葉県環境部自然保護課. 1977. 干潟等概況調査報告書 昭和51年度調査. 60pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
1976年4月~1977年3月に一宮川河口付近で観察した91種の個体数を報告している.
14. 千葉県環境部自然保護課. 1978. 干潟等概況調査報告書 昭和52年度調査. 58pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
1977年4月~1978年3月に一宮川河口付近で観察した95種の個体数を報告している.
15. 千葉県環境部自然保護課. 1986. 千葉県鳥類生息分布図作成調査報告書 昭和61年. 92pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
1976~85年に生息が確認された鳥類をメッシュ毎に図示した報告書である. 調査範囲に, 一宮川河口を含むメッシュでは134種が図示してある.
16. 千葉県環境部自然保護課. 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック- 動物編. 438pp. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.
九十九里浜の保護生物として, コチドリ, シロチドリ, コアジサシ, イソヒヨドリ, クロガモ, ビロードキンクロなどについて記述している.
17. 千葉県林務課. 1972. 千葉県鳥類目録基礎資料 No.1. 27pp. 千葉県, 千葉.

1966～1972年に一の宮で記録された33種を収録している。

18. 千葉県野鳥の会. 1989. 一宮川河口鳥獣保護区. 鳥獣保護区内野生鳥獣生息環境調査報告 昭和63年度: 48-59. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.

1988年8月～1989年2月に一宮川河口で観察した20科43種の個体数を報告している. また, この期間中に記録された20科53種のリストも付す.

19. 千葉県野鳥の会. 1999. 一宮川河口鳥獣保護区. 鳥獣保護区内野生鳥獣生息環境調査報告書 平成10年度: 35-51. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.

1998年5月～12月に一宮川河口で観察した25科55種の個体数を報告している. また, この期間中に記録された30科79種のリストも付す.

20. 千羽晋示. 1973. 一の宮川河口付近の鳥類生息地について. 千葉県天然記念物保存調査報告書 1972: 40-55. 千葉県教育委員会, 千葉.

一宮川河口付近の鳥類仮目録として100種の和名リストを収録している. また, 1965年9月～1972年9月の日本野鳥の会東京支部探鳥会の記録も付す.

21. 千羽晋示. 1975. 一宮川河口付近の渡り鳥飛来地と湿性植物群落(植物). 千葉県環境部自然保護課(編). 千葉県自然環境保全地域等の設定及び保全対策に関する学術調査報告書 1975: 126-130. 千葉県環境部自然保護課, 千葉.

一宮川河口で, 1973年9月～10月に観察した鳥類49種, 1974年9月～11月に観察した鳥類27種の個体数などを報告している. 千羽1973の報告に12種を加え, 112種となったことも記す.

22. 近辻宏帰. 1965. 千葉県長生郡長生村城之内干拓地におけるシギ・チドリ類の春の「渡り」. 早稲田生物 (14) : 69-70.

1965年4月～5月に城之内干拓地で観察したシギ・チドリ類20種の個体数を報告している.

23. 近辻宏帰. 1966a. 千葉県長生郡長生村城之内干拓地におけるシギ・チドリ類の秋の「渡り」. 早稲田生物 (15) : 74-75.

1965年8月～11月に城之内干拓地で観察したシギ・チドリ類32種の個体数を報告している.

24. 近辻宏帰. 1966b. カラフトコヒバリの記録. 野鳥31 (7) : 5-6.

1966年4月に長生村城之内干拓地で観察したカラフトコヒバリの記録を報告している.

25. 藤本和典. 1993. 野鳥ポケット図鑑 (主婦の友生活シリーズ). 432pp. 主婦の友社, 東京.

九十九里浜で撮影したミュビシギ, アカエリヒレアシシギの写真を掲載している.

26. 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1997. シギ・チドリ全国カウント報告書 1997年春. 271pp. 日本湿地ネットワーク・シギチドリ委員会, 豊橋.

1997年4月～5月に一宮川河口, 飯岡海岸, 南白亀川～堀川, 堀川～真亀川, 真亀川～作田川, 作田川～木戸川, 木戸川～栗山川, 栗山川～新川で観察した種毎の個体数を報告している.

27. 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1998a. シギ・チドリ全国カウント報告書 1997年秋. 265pp. 日本湿地ネットワーク・シギチドリ委員会, 豊橋.

1997年7月～10月に一宮川河口, 飯岡海岸, 南白亀川～堀川, 堀川～真亀川, 真亀川～作田川, 作田川～木戸川, 木戸川～栗山川, 栗山川～新川で観察した種毎の個体数を報告している.

28. 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1998b. シギ・チドリ全国カウント報告書 1998年春. 192pp. 日本湿地ネットワーク

- ク・シギチドリ委員会，豊橋。
- 1998年3月～5月に一宮川河口，飯岡海岸，南白亀川～堀川，堀川～真亀川，真亀川～作田川，作田川～木戸川，木戸川～栗山川，栗山川～新川で観察した種毎の個体数を報告している。
29. 藤岡エリ子・藤岡純治・稲田浩三・桑原和之. 1999. シギ・チドリ全国カウント報告書 1998年秋. 176pp. 日本湿地ネットワーク・シギチドリ委員会，豊橋。
- 1998年7月～11月に一宮川河口，飯岡海岸，南白亀川～堀川，堀川～真亀川，真亀川～作田川，作田川～木戸川，木戸川～栗山川，栗山川～新川で観察した種毎の個体数を報告している。
30. 藤原郁久. 1980. 千葉県一の宮河口付近のシギ・チドリ類と、その環境の変化. 早稲田生物 (23) : 55-56, 付表2枚。
- 1961～78年に一の宮川河口付近で記録されたシギ・チドリ類53種を年毎にまとめた報告である。湿地の埋立てなどの環境の変化についても言及している。
31. 福田南海男. 1974. メダイチドリの食事. 野鳥39 (4) : 口絵。
- 1973年9月に上総一の宮で撮影したメダイチドリの写真を掲載している。
32. 波多野泰夫. 1971. オオソリハシシギ. 野鳥36 (8) : 口絵。
- 1969年4月に上総一の宮で撮影したオオソリハシシギの写真を掲載している。
33. 原 保司. 1980. 上総一の宮のシギ・チドリ. 早稲田生物 (23) : 76-80, 別表2枚。
- 1966～78年に一の宮で行った春秋期シギ・チドリ類カウント結果を収録している。総観察種は44種としている。
34. 日比 彰. 1973. 千葉県上総一の宮にオオセッカ. 野鳥38 (7) : 47。
- 1973年1月～4月に上総一の宮の城之内干拓地で観察したオオセッカの記録を報告している。
35. 今西貞夫・大庭照代. 1991. 県立九十九里自然公園における鳥類の生息状況について. 千葉県環境部自然保護課(編). 自然公園自然環境調査報告書 水郷筑波国定公園・県立大根自然公園・県立九十九里自然公園 : 95-125. 千葉県環境部自然保護課，千葉。
- 1990年5月～1991年1月に野手浜～木戸浜～成東海岸（栗山川河口，木戸川河口，作田川河口，蓮沼海浜公園松林）と一宮川河口で観察した種毎の個体数及び文献記録を含めた近年の記録種等を収録している。
36. 石江 馨. 1976. 千葉県一の宮のコバシチドリ. 野鳥41 (11) : 口絵, 47。
- 1976年9月に一の宮で撮影したコバシチドリの写真を掲載するとともに，そのときの様子も報告している。
37. 伊藤信男. 1973. 休息するシギの群れ／ソリハシシギ. 野鳥38 (9) : 口絵。
- 1972年9月に上総一の宮で撮影したソリハシシギの写真を掲載している。
38. 環境庁自然保護局野生生物課. 1997. シギ・チドリ類渡来湿地目録. 193pp. 環境庁自然保護局野生生物課，東京。
- 東アジア～オーストラリア地域におけるシギ・チドリ類に関する湿地ネットワークへの参加基準を満たすシギ・チドリ類の渡来地として一宮川河口をあげている。
39. 叶内拓哉. 1993. 花見鳥. 88pp. 文一総合出版，東京。
- 九十九里浜で撮影したダイシャクシギの写真を掲載している。
40. 叶内拓哉. 1994. ポケット野鳥. 223pp. 家の光協会，東京。
- 九十九里で撮影したチュウシャクシギの写真を掲載している。
41. 叶内拓哉. 2003. 海辺の砂浜で見る鳥（ココでこの鳥5）. Birder 17(8) : 16-20.

1990年7月に九十九里浜で撮影したダイショクシギの写真を掲載している。

42. 糟谷大河・岡奈理子. 2003. 2003年晩春, 日本で発生したハシボソミズナギドリの大量死. 日本鳥学会2003年度大会講演要旨集: 35.

2003年6月に一宮町の海岸に漂着したハシボソミズナギドリの大量な斃死体について報告している。

43. 川路則友・東条一史・北原英治. 2002. Catalogue of T. Mishima's Collection-Bird Skins- (三島コレクション標本目録-仮剥製鳥類標本-). 森林総合研究所研究報告 1(4): 245-323.

1954年7月14日に白子町五井海岸で捕獲されたコサギ及び1956年2月12日に夷隅郡太東で捕獲されたアオジの標本の記録を報告している。

44. 清棲幸保. 1966. 野鳥の事典. 413pp. 東京堂出版, 東京.

1965年9月~1966年10月に上総一の宮で撮影したオオソリハシシギ, アカアシシギ, オグロシギ, キアシシギ, ソリハシシギ, ダイゼン, メダイチドリと, 1960年9月に九十九里町片貝で撮影したミュビシギの写真を掲載している。

45. 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 II 増補改訂版. 898pp. 講談社, 東京.

1965年9月~1976年9月に上総一の宮で撮影したハジロクロハラアジサシ, アカエリヒレアシシギ, サルハマシギ, キリアイ, エリマキシギ, タマシギ, ソリハシシギ, タカブシギ, キアシシギ, オグロシギ, チュウシャクシギ, オオソリハシシギ, メダイチドリの写真を掲載している。

46. 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑 別巻増補改訂版. 178pp. 講談社, 東京.

分布地の追加として, 1966年9月~1977年9月に上総一の宮で観察されたオオセッカ, ハジロクロハラアジサシ, クロトウゾクカモ

メ, アカエリヒレアシシギ, アカアシシギ, コアオアシシギ, オグロシギ, サルハマシギ, ヒメウズラシギ, キリアイ, コモンシギ, ミユビシギ, コバシチドリ, ハジロコチドリの記録を報告している。

47. 清棲幸保・清棲保之. 1974. 渡り鳥 (カラー自然ガイド). 151pp. 保育社, 大阪.

一宮で撮影したキリアイ, トウネン, オグロシギ, エリマキシギ, チュウシャクシギ, アカエリヒレアシシギ, オオソリハシシギ, ハジロクロハラアジサシの写真を掲載している。また, シギ・チドリ類の渡来休息地のひとつとして, 一宮川河口付近が知られていると記述している。

48. 木津川信之助. 1974. 九十九里海岸でハタオリドリ類が巣作り. 野鳥39 (6) : 38.

1971年7月に蓮沼村で観察したハタオリドリ類の巣作りについて報告している。

49. 小宮輝之. 2000. 日本の野鳥 (フィールドベスト図鑑). 260pp. 学習研究社, 東京.

九十九里浜で撮影したミュビシギの写真を掲載している。

50. 久保敬親. 1997. 野鳥賦. 1冊. 日本カメラ社, 東京.

九十九里で撮影したミュビシギの写真を掲載している。

51. 九十九里浜鳥類調査グループ. 1973a. 九十九里浜の鳥類調査. 千葉生物誌22(1・2): 9-28.

九十九里浜北・中部として, 飯岡町~南白亀川河口の10地点で1972年3月~1973年1月に観察した77種の最大数などを報告し, 併せて, 一部地点については, 1968年2月~1971年2月の最大数を補記している。九十九里浜南部として, 南白亀川河口~一宮町の3地点(夷隅川河口は参考)で1973年1月に観察した27科67種の個体数を報告している。別表として, 一宮川河口で1963~1973年に記録された15目38科166種の和名リストを付す。

52. 九十九里浜鳥類調査グループ. 1973b. 九十九里浜の鳥類調査. 千葉県自然破壊: 43-50. 日本科学者会議千葉支部・房総の自然を守る会・千葉県住民運動連絡会・千葉県自治体問題研究所.
1972年度に行った九十九里浜の鳥類調査の概要を記述している. 別表として, 一宮川河口で1963~1973年に記録された15目38科166種の和名リストを付す.
53. 桑原和之. 2002. 2001年秋のアオジとマヒワ. *Birder* 16(1): 30-32.
2001年秋に九十九里海岸などで観察したアオジとマヒワについて記述している.
54. 桑原和之. 2003a. 九十九里浜低地の鳥たち. 平成15年度千葉県立中央博物館特別展「野の花今昔」講演会要旨: 2-4.
九十九里浜やその海上などで見られる鳥類について簡略に説明している.
55. 桑原和之. 2003b. 湿原と浜の鳥たち—九十九里浜平野の鳥たち— (平成15年度特別展「野の花・今昔」展示資料紹介). 2pp. 千葉県立中央博物館, 千葉.
九十九里平野の水田地帯の水鳥や九十九里浜のミユビシギなどについて解説している.
56. 桑原和之・箕輪義隆. 2003. 東京湾のコアジサシ. やましの鳥研NEWS (174): 2.
2003年7月に千葉市検見川の浜で確認したコアジサシの時に飯岡町飯岡漁港で標識放鳥された幼鳥が含まれていたことを報告している.
57. 桑原和之・森谷 淵. 2003. ハシボソミズナギドリの受難. *みみずく* (32): 1-5.
2003年5月に白子町荊金海岸で保護したハシボソミズナギドリについて記述している.
58. 桑原和之・高木 武. 2000. 利根川河口に飛来するカモメ類. 倉西良一・小田島高之 (編). 知られざる極東ロシアの自然—ヒグマ・シベリアトラの大地を旅する—. 平成12年度特別展解説書: 93-98. 千葉県立中央博物館, 千葉.
1999年12月に九十九里海岸で確認されたミツウビカモメ, 成東町成東海岸で観察されたヒメクビワカモメについて記述している.
59. 桑原和之・比護剛志・小田島高之. 2003. 2002-3年越冬期に保護されたハイイロウミツバメ. *みみずく* 31: 1-5.
2003年1月に蓮沼村南浜で拾得されたハイイロウミツバメについて記述している.
60. 桑原和之・箕輪義隆・田邊以久雄. 2003. 2003年, 東京湾のコアジサシの動向. *Birder* 17(11): 82-83.
コアジサシの繁殖地として九十九里浜が図示されているほか, コアジサシの飛来時期についても記述している.
61. 桑原和之・佐藤文男・鈴木恒治. 1992. タグ標識をしたウミネコの観察記録. 日本鳥類標識協会誌 (7): 10-20.
1990年11月に九十九里町片貝で確認した標識を付けたウミネコの記録を報告している.
62. 桑原和之・箕輪義隆・澤口晶子・嶋田哲郎. 2000. ロシアから渡ってくるシギ・チドリ類—千葉県における重要渡来地—. 倉西良一・小田島高之 (編). 知られざる極東ロシアの自然—ヒグマ・シベリアトラの大地を旅する—. 平成12年度特別展解説書: 78-86. 千葉県立中央博物館, 千葉.
1998年5月~1999年12月に飯岡海岸で, 1999年1月~2000年2月に荊金海岸で観察した種毎の個体数を報告している. ロシアから渡ってくるシギ・チドリ類の重要な渡来地として九十九里浜の特徴的な鳥相についても記述している.
63. 桑原和之・田邊以久雄・奴賀俊光・小川和子. 2001. 鹿島灘から九十九里海岸のミユビシギ *Calidris alba*. 2001年度 (第16回) 日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集: 16.
鹿島灘から九十九里浜でのミユビシギの

観察から、渡りについての課題を提起している。

64. 桑原和之・箕輪義隆・田邊以久雄・奴賀俊光・茂田良光. 2003. 2003年のコアジサシの個体数変動. 2003年度 第18回日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集: 27.
2003年7月～8月に千葉市検見川の浜で確認したコアジサシの時に飯岡漁港で標識放鳥された幼鳥が含まれていたことを報告している。
65. 桑原和之・早川雅晴・石黒夏美・佐藤達夫・澤口晶子・笠井貞義・箕輪義隆. 2000. 東京湾岸、特に千葉市周辺におけるコアジサシの繁殖状況. 桑原和之・箕輪義隆・石黒夏美・嶋田哲郎 (編). 東京湾の鳥類—多摩川・三番瀬・小櫃川の鳥たち—: 470-526. たけしま出版, 流山.
白子海岸等における1990年から1997年まで及び1998年のコアジサシの繁殖状況について記述している。
66. 桑原和之・箕輪義隆・田邊以久雄・奴賀俊光・方波見守一・佐藤達夫・早川雅晴・茂田良光. 2003. 2003年、千葉県・茨城県におけるコアジサシの繁殖状況. 2003年度 第18回日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集: 26.
コアジサシのコロニーとして飯岡漁港地先埋立地と白子町剃金海岸を記載している。
67. 前川 聡・東梅貞義・折田貴司・花輪伸一. 2001. 優先して鳥獣保護区にすべきシギ・チドリ類の渡来地—日本におけるラムサール条約登録湿地・水鳥保全ネットワークへの適合性に関する資料—. 35pp. 世界自然保護基金ジャパン, 東京.
九十九里浜のミユビシギがシギ・チドリネットワークへの参加適合基準を満たしていることを記述している。
68. 毎日新聞千葉支局. 1973. 九十九里. 199pp. 九十九里史料調査研究会, 茂原.
一宮川河口は昔から野鳥の宝庫として有名であったと記すとともに、藤村仁氏は156種を確認したと記述している。
69. 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥 590. 654pp. 平凡社, 東京.
九十九里浜で撮影したウミネコの写真を掲載している。
70. 箕輪義隆・矢作英三. 1999. カモの性比をしらべる. 私たちの自然(452): 8-10.
1999年10月に九十九里海岸で観察したクロガモのオス・メスの比率について記述している。
71. 森岡照明. 1986. 水辺の鳥 基本50. 128pp. 森林書館, 東京.
長生村で撮影したキアシシギの写真を掲載している。
72. 並木啓次. 1970. チュウシャクシギ. 野鳥35 (4) : 口絵.
1969年8月に一の宮で撮影したチュウシャクシギの写真を掲載している。
73. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会. 1973. 干潟に生息する鳥類の全国一勢調査報告書. 102pp. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会, 東京.
1973年9月に上総一宮で観察した37種の個体数を報告している。
74. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会. 1975. 干潟に生息する鳥類の全国一斉調査報告書 2. 104pp. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会, 東京.
栗山川河口における鳥相などの概要を記述している。
75. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会. 1976. 干潟に生息する鳥類の全国一斉調査報告書 3. 66pp. 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会, 東京.
1974年5・9月及び1975年4・9月に一の宮で観察したチドリ目、シギ・チドリ類の個体数と総個体数を報告している。

76. 日本野鳥の会. 1977. 干潟に生息する鳥類の全国一斉調査報告書 4. 64pp. 日本野鳥の会, 東京.
1975年4月・1976年4月及び1975年9月・1976年9月に一の宮などで観察したチドリ目, シギ・チドリ類の個体数及び総個体数を報告している.
77. 日本野鳥の会千葉支部. 1975. 千葉県水鳥調査報告書 昭和50年2月調査. 34, 7, 34pp. 日本野鳥の会千葉支部, 千葉.
1975年2月に上総一宮, 南白亀川, 真亀川, 栗山川で観察した個体数を報告している.
78. 日本野鳥の会研究センター. 1989. 第8回日本野鳥の会ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査(1989年)結果報告一主に記録種・個体数と種別主要記録地の全国分布について一. *Strix* 8: 299-346.
1989年1月に実施されたガン・カモ・ハクチョウ類の全国一斉調査による栗山川河口などのクロガモ, ビロードキンクロの個体数を報告している.
79. 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1994. 野鳥情報・観察記録(1993.7-1994.7). *Strix* 13: 265-274.
1993年8月~1994年8月に一宮川河口で観察したカラシラサギ, ハシブトアジサシの記録を報告している.
80. 奴賀俊光. 2002. 九十九里浜におけるシギ・チドリ類の分布と底生動物量との関係. 千葉大学大学院自然科学研究科修士論文. 68pp.
ミュビシギやオバシギなどとベントスの関係を解析している.
81. 奴賀俊光・C.P.ノーマン・桑原和之・宮崎龍雄. 2001. 九十九里浜におけるシギ・チドリ類と底生生物との関係. 第10回日本ベントス学会関東地区会講演要旨集: 12.
ミュビシギなどのシギ・チドリ類とベントスとの関係を解析している.
82. 奴賀俊光・Christopher. P. Norman・桑原和之・宮崎龍雄. 2001. 九十九里浜におけるシギ・チドリ類の分布と底生動物との関係. 日本鳥学会2001年度大会講演要旨集: 49.
ミュビシギとフジノハナガイの関連について解析している.
83. 奴賀俊光・桑原和之・箕輪義隆・田邊以久雄・綾富美子・泉 宏子・本間 征. 2003. ミュビシギの個体数変動. 2003年度 第18回日本鳥類標識協会全国大会講演要旨集: 12.
2003年8月~9月に九十九里浜各地で観察したミュビシギの最大数, 標識放鳥について報告している.
84. 奴賀俊光・桑原和之・田邊以久雄・箕輪義隆・綾富美子・泉 宏子・本間 征・Christopher Paul Norman. 2003. 九十九里浜から鹿島灘および東京湾におけるミュビシギの分布. 日本鳥学会2003年度大会講演要旨集: 111.
ミュビシギの分布と餌となる底生動物との関係について解析している.
85. 小川和子. 1999. ミュビシギの波追い行動と潮汐要因との関係. 東邦大学理学部1999年度特別問題研究報告書. 28pp.
ミュビシギの波追い行動に潮汐変動が及ぼす影響について解析している.
86. 小川和子. 2001a. ミュビシギの採食場所選択要因. 第10回日本ベントス学会関東地区講演要旨集: 11.
ミュビシギと潮汐の関係について解析している.
87. 小川和子. 2001b. 渡り期および越冬期におけるミュビシギの採食行動と底生動物量との関係. 日本鳥学会2001年度大会講演要旨集: 129.
ミュビシギの採食行動とベントスの行動の関係について解析している.
88. 小川和子. 2002. ミュビシギ *Galidris alba* の採食場所と採食行動様式に影響を及ぼす

要因：九十九里浜南部における渡り期と越冬期の調査。東邦大学大学院理学研究科生物学専攻修士論文。27pp, 図28枚, 表5枚, 付表3枚。

ミュビシギの採食行動について考察している。

89. 岡 董高. 1972. コノハズク冬の記録. 鳥 21(91・92): 85-87.

1966年11月に九十九里ヶ浜で確認したコノハズクの記録を報告している。

90. 斉藤 愛. 1998. 九十九里浜における越冬ミュビシギの分布と海浜環境との関係. 東邦大学理学部1998年度特別問題研究報告書. 43pp.

1998年11～12月に東浪見海岸～野手浜海岸で行ったミュビシギの観察による分布と海浜環境との関係について考察している。

91. 斉藤敏一. 1971. 千葉県北東部の鳥. 野鳥 36 (9) : 40-45.

1968年8月～1969年8月に九十九里浜とその周辺で観察したキリアイ, オオメダイチドリの記録を報告している。

92. 斉藤敏一・桑原和之. 1991. ツバメチドリの繁殖とムナグロの越夏. 日本の生物 5(2): 38-39.

1990年5月～8月に干潟町で観察したツバメチドリの繁殖とムナグロの越夏を報告している。

93. 世界自然保護基金日本委員会. 2000a. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成11年度冬期. 70pp. 環境庁自然保護局野生生物課, 東京.

2000年1月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 越冬期に観察した種毎の最大値も報告している。

94. 世界自然保護基金日本委員会. 2000b. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成12年度春期. 60pp. 環境庁自然保護局, 東京.

2000年4月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 春の渡りの時期に観察した種毎の最大値も報告している。

95. 世界自然保護基金日本委員会. 2000c. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成12年度秋期. 61pp. 環境庁自然保護局, 東京.

2000年9月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 秋の渡りの時期に観察した種毎の最大値も報告している。

96. 世界自然保護基金ジャパン. 2001a. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成12年度冬期. 67pp. 環境省自然保護局, 東京.

2001年1月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 冬の越冬期に観察した種毎の最大値も報告している。

97. 世界自然保護基金ジャパン. 2001b. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査報告書 平成12年度. 132pp. 世界自然保護基金ジャパン, 東京.

98. 世界自然保護基金ジャパン. 2001c. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成13年度春期. 66pp. 環境省自然環境局, 東京.

2001年4月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 春の渡りの時期に観察した種毎の最大値も報告している。

99. 世界自然保護基金ジャパン. 2001d. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成13年度秋期. 79pp. 環境省自然環境局, 東京.

2001年9月に一宮川河口, 南白亀川～堀川, 堀川～真亀川, 真亀川～作田川, 作田川～木戸川, 木戸川～栗山川で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 秋の渡りの時期(8月～9月)に観察した種毎の最大値も報告している。

100. 世界自然保護基金ジャパン. 2002a. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査

速報 平成13年度冬期. 83pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

2002年1月に一宮川河口, 飯岡海岸, 南白亀川~堀川, 堀川~真亀川, 真亀川~作田川, 作田川~木戸川, 木戸川~栗山川で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 冬の越冬時期(12月~1月)に観察した種毎の最大値も報告している.

101. 世界自然保護基金ジャパン. 2002b. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査報告書 平成13年度. 174pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

102. 世界自然保護基金ジャパン. 2002c. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成14年度春期. 51pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

2002年4月に一宮川河口, 飯岡海岸, 南白亀川~堀川, 堀川~真亀川, 真亀川~作田川, 作田川~木戸川, 木戸川~栗山川で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 春の渡りの時期(4月~5月)に観察した種毎の最大値も報告している. また, 優占種の渡来状況として, 飯岡海岸でのチュウシヤクシギ, 九十九里浜でのミュビシギについても記述している.

103. 世界自然保護基金ジャパン. 2002d. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成14年度秋期. 55pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

2002年9月に一宮川河口, 南白亀川~堀川, 堀川~真亀川, 真亀川~作田川, 作田川~木戸川, 木戸川~栗山川, 栗山川~新川で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 8月~9月の秋の渡りの時期に観察した種毎の最大値も報告している. また, 優占種の渡来状況として, 九十九里浜でのミュビシギについても記述している.

104. 世界自然保護基金ジャパン. 2003a. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査速報 平成14年度冬期. 48pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.

2003年1月に一宮川河口, 飯岡海岸, 栗山川~新川で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 冬の越冬時期(12月~2月)に前記の地点のほか九十九里浜各地で観察した種毎の最大値も報告している. また, 優占種の渡来状況として, 九十九里浜でのミュビシギについても記述している.

105. 世界自然保護基金ジャパン. 2003b. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査報告書 平成15年度. 190pp. 世界自然保護基金ジャパン, 東京.

2002年4・9月, 2003年1月に九十九里浜各地で観察した記録をまとめた報告で, データは, 世界自然保護基金ジャパン(2002c,2002d,2003a)と同じである. 経年変化, 渡来状況として, 九十九里浜でのミュビシギについても記述している.

106. 世界自然保護基金ジャパン. 2003c. シギ・チドリ類個体数変動モニタリング調査報告書 平成15年度春期. 55pp. 世界自然保護基金ジャパン, 東京.

2003年4月に一宮川河口で観察した種毎の個体数を報告しているほか, 冬の越冬時期に九十九里浜各地で観察した種毎の最大値も報告している. また, 優先種の渡来状況として, 飯岡海岸でのチュウシヤクシギについても記述している.

107. 茂田良光・桑原和之. 2001. ヒマラヤを越えるツル. 木村 修・直海俊一郎・加藤久佳・藤原道郎(編). ヒマラヤ人・自然・文化-. 平成13年度特別展解説書: 79-80. 千葉県立中央博物館, 千葉.

1987年11月に白子町浜宿新田で記録されたクロヅルについて報告している.

108. 嶋田哲郎・桑原和之・箕輪義隆・石黒夏美. 2000. 日本で越冬するガンカモ類. 倉西良一・小田島高之(編). 知られざる極東ロシアの自然-ヒグマ・シベリアトラの大地を旅する-. 平成12年度特別展解説書: 67-77. 千葉県立中央博物館, 千葉.

2001年1月~4月に飯岡海岸で観察したクロガ

- その個体数の季節変動について報告している。
109. 志村英雄. 2000. 一宮川河口干潟. 探鳥地図館 首都圏: 190-191. 小学館, 東京.
探鳥地のガイド.
110. 高田悦子. 1971. ハマシギ/トウネン. 野鳥36 (8) : 口絵.
1964年10月~1969年9月に上総一の宮で撮影したハマシギ, トウネンの写真を掲載している.
111. 高野伸二. 1964. ヒメウズラシギの撮影記録二例. 鳥18(82): 口絵, 47-48.
1963年9月に片貝海岸で撮影したヒメウズラシギの写真を掲載している.
112. 高野伸二. 1966a. オオメダイチドリの脚の色. 野鳥31 (9) : 7.
1966年8月に上総一の宮で観察したオオメダイチドリの記録を報告している.
113. 高野伸二. 1966b. グンカンドリを見る. 野鳥31 (9) : 11.
1966年8月に上総一宮の海上で観察したグンカンドリの記録を報告している.
114. 高野伸二. 1967a. ハマはやっぱり横綱. 野鳥32 (6) : 15.
1966年9月に一宮で観察したコチドリ, ヒバリシギ, オジロトウネン, コオバシギ, オバシギなどシギ・チドリ30種の記録を報告している.
115. 高野伸二. 1967b. 野鳥-原色・自然の手帖- (ブルーボックス). 211pp. 講談社, 東京.
1965年10月~1966年9月に一宮で撮影したアカエリヒレアシシギ, オオソリハシシギ, チュウシャクシギの写真を掲載している.
116. 高野伸二. 1968. コモンシギの記録. 野鳥33 (2) : 6-7.
1967年9月に上総一宮で観察したコモンシギの記録を報告している.
117. 高野伸二. 1970a. 珍鳥風景 (1). 野鳥35 (3) : 18-20.
1969年9月に一の宮で観察したセイタカシギの記録を報告している.
118. 高野伸二. 1970b. 上総一の宮にヒメウズラシギ. 野鳥35 (5) : 12.
1969年9月に一の宮川河口付近で観察したヒメウズラシギの記録を報告している.
119. 高野伸二. 1971. キリアイの群. 野鳥36 (8) : 口絵.
1969年9月に一の宮海岸で撮影したキリアイの写真を掲載している.
120. 高野伸二. 1974. 野の鳥の四季. 63pp. 小学館, 東京.
一の宮で撮影したキアシシギ, ソリハシシギ, オグロシギ, オオソリハシシギ, キリアイ, オオジシギの写真を掲載している. また, 1962年9月に一の宮川河口で観察したコモンシギなどについても記述している.
121. 高野伸二. 1977. 日本の野鳥-野外での見分け方- (自然観察と生態シリーズ 7). 190pp. 小学館, 東京.
1967年9月に一ツ松で観察したコモンシギの記録を掲載している.
122. 高野伸二. 1978. 野鳥 (野外ハンドブック 4). 239pp. 山と溪谷社, 東京.
1975年9月に上総一ノ宮で撮影したキリアイの写真を掲載している.
123. 高野伸二. 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 474pp. 東海大学出版会, 東京.
1965年10月~1990年7月に一宮町などで撮影したメダイチドリ, コバシチドリ, サルハマシギ, キアシシギ, ダイシャクシギ, ハイイロヒレアシシギ, アカエリヒレアシシギ, クロトウゾクカモメの写真を掲載している.
124. 高野伸二. 1984. 野鳥小図鑑 (フィールド図鑑). 228pp. 東海大学出版会, 東京.

- 1976年9月～1977年9月に一の宮で撮影したメダイチドリ、オグロシギ、チュウシャクシギ、ハイイロヒレアシシギの写真を掲載している。
125. 高野伸二. 1985. 日本の野鳥 (山溪カラー名鑑). 591pp. 山と溪谷社, 東京.
九十九里浜などで撮影したトウネン, ミユビシギ, ハイイロヒレアシシギ, クロトウゾクカモメの写真を掲載している。
126. 高野凱夫. 1973. クロトウゾクカモメの若鳥. 野鳥38 (2) : 口絵.
1969年9月に上総一の宮で撮影したクロトウゾクカモメの写真を掲載している。
127. 武下雅文. 1995. 日本におけるズグロカモメの生息記録. *Strix* 14 : 182-185.
1994年1月に一宮川河口で観察したズグロカモメの記録を報告している。
128. Thompson, J. Kuwabara, K. and Fujita, G. 1993. Shorebirds in Japan. A status overview of shorebirds in the east Asian. *Australasian flyway* : 119-145. Asian Wetland Bureau, Kuala Lumpur.
九十九里浜の砂浜は, ミユビシギにとっては重要な越冬地, シロチドリにとっては重要な繁殖地であると記述している。
129. 土屋俊一. 1982. 九十九里浜におけるミユビシギの渡りと越冬生態. 東邦大学特研文集 VI. 32pp.
130. 上田恵介・和田剛一. 1997. 野鳥282 (POCKET GUIDE). 319pp. 小学館, 東京.
一宮川などで撮影したメダイチドリ, トウネン, ミユビシギ, アオアシシギ, イソシギ, ソリハシシギ, オオソリハシシギ, アジサシの写真を掲載している。
131. 山階鳥類研究所. 1996. 鳥類標識調査報告書 (鳥類観測ステーション運営) 平成7年度. 210pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
1995年に木戸川河口で回収したオーストラリア・ビクトリア州放鳥のミユビシギの記録を報告している。
132. 山階鳥類研究所. 1997a. 鳥類標識調査報告書 (鳥類観測ステーション運営) 平成8年度. 219pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
1996年9月に一宮川河口で観察されたオーストラリア・ビクトリア州南部放鳥のミユビシギの記録を報告している。
133. 山階鳥類研究所. 1997b. 渡り鳥アトラスー鳥類回収記録解析報告書 (スズメ目編 1961年～1995年) - . 122pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
長生村で回収されたコジュリンなどについて報告している。
134. 山階鳥類研究所. 1999. 鳥類標識調査報告書 (鳥類観測ステーション運営) 平成10年度. 206pp. 山階鳥類研究所, 我孫子.
1998年4月に一宮川河口で観察された谷津干潟放鳥のチュウシャクシギと, 1998年8月に一宮川河口で観察されたオーストラリア・ビクトリア州南部放鳥のミユビシギの記録を報告している。
135. 山階鳥類研究所標識研究室. 1985. 日本の鳥類標識調査 (昭和36年～昭和58年). 202pp. 山階鳥類研究所標識研究室, 我孫子.
1976年2月に白子町で回収された山武町放鳥のカルガモの記録を報告している。
136. 山と溪谷社. 1970. カラー日本の野鳥 2 (山溪カラーガイド). 206pp. 山と溪谷社, 東京.
1966年10月～1968年9月に上総一ノ宮で撮影したアカエリヒレアシシギ, オグロシギ, アカアシシギ, チュウシャクシギ, キリアイの写真を掲載している。
137. 柳沢紀夫. 1971. キョウジョシギ. 野鳥 36 (8) : 口絵.
1966年4月に上総一の宮で撮影したキョウジョシギの写真を掲載している。
138. 柳沢紀夫. 1977. 原色・野鳥. 206pp. 家

の光協会，東京。

一宮川などで撮影したオオジシギ，チュウシャクシギ，オオソリハシシギ，キアシシギ，タカブシギ，キョウジョシギの写真を掲載している。

139. 吉井 正・叶内拓哉. 1979. わたり鳥. 103pp. 東海大学出版会，東京。

1976年9月～1977年9月に上総一ノ宮で撮影したキアシシギ，コバシチドリの写真を掲載しているほか，一ノ宮でのオオセッカの標識調査についても記述している。

140. 無署名. 1973. 九十九里浜沿岸の鳥類調査. 千葉県企画部企画課(編). 千葉県自然環境調査報告書 1972 : 217-239. 千葉県企画部企画課，千葉。

九十九里浜北・中部として，飯岡町～南白亀川河口の10地点で1972年3月～1973年1月に観察した77種の最大数などを報告し，併せて，一部地点については，1968年2月～1971年2月の最大数を補記している。九十九里浜南部として，南白亀川河口～一宮町の3地点(夷隅川河口は参考)で1973年1月に観察した27科67種の個体数を報告している。別表として，一宮川河口で1963～1973年に記録された14目38科166種の和名リストを付す。なお，内容は九十九里浜鳥類調査グループ(1973a)と同じである。

141. 無署名. 1984. 水辺に生きる. 野鳥の歳時記 3 夏の鳥 : 77-92. 小学館，東京。

一宮川で撮影したオオジシギの写真を掲載している。

142. 無署名. 1984. 干潟の秋. 野鳥の歳時記 4 秋の鳥 : 29-44. 小学館，東京。

一宮川で撮影したキョウジョシギ，チュウシャクシギの写真を掲載している。

143. 無署名. 1985. 野鳥 (JTBブックス カラー図鑑). 223pp. 日本交通公社出版事業局，東京。

一宮町で撮影したチュウシャクシギ，ソリハシシギ，キアシシギ，キリアイ，ハマシギ，トウネン，メダイチドリの写真を掲載している。

144. 無署名. 1990. 上総一宮. バードウォッチング・ウォークー東京&近郊85コース : 158. 朝日新聞社，東京。

探鳥地のガイド。

145. 無署名. 1993. 九十九里浜南端の干潟・ミュビシギ来る一宮川河口. 日本列島・野鳥maps 首都圏の野鳥 : 110-111. 北隆館，東京。

探鳥地のガイド。

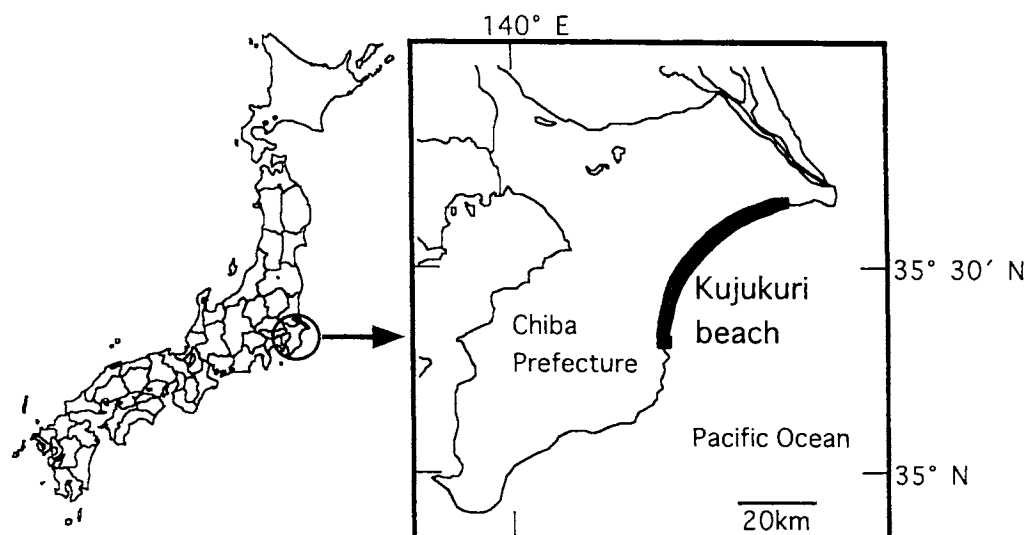


図1 九十九里浜位置図

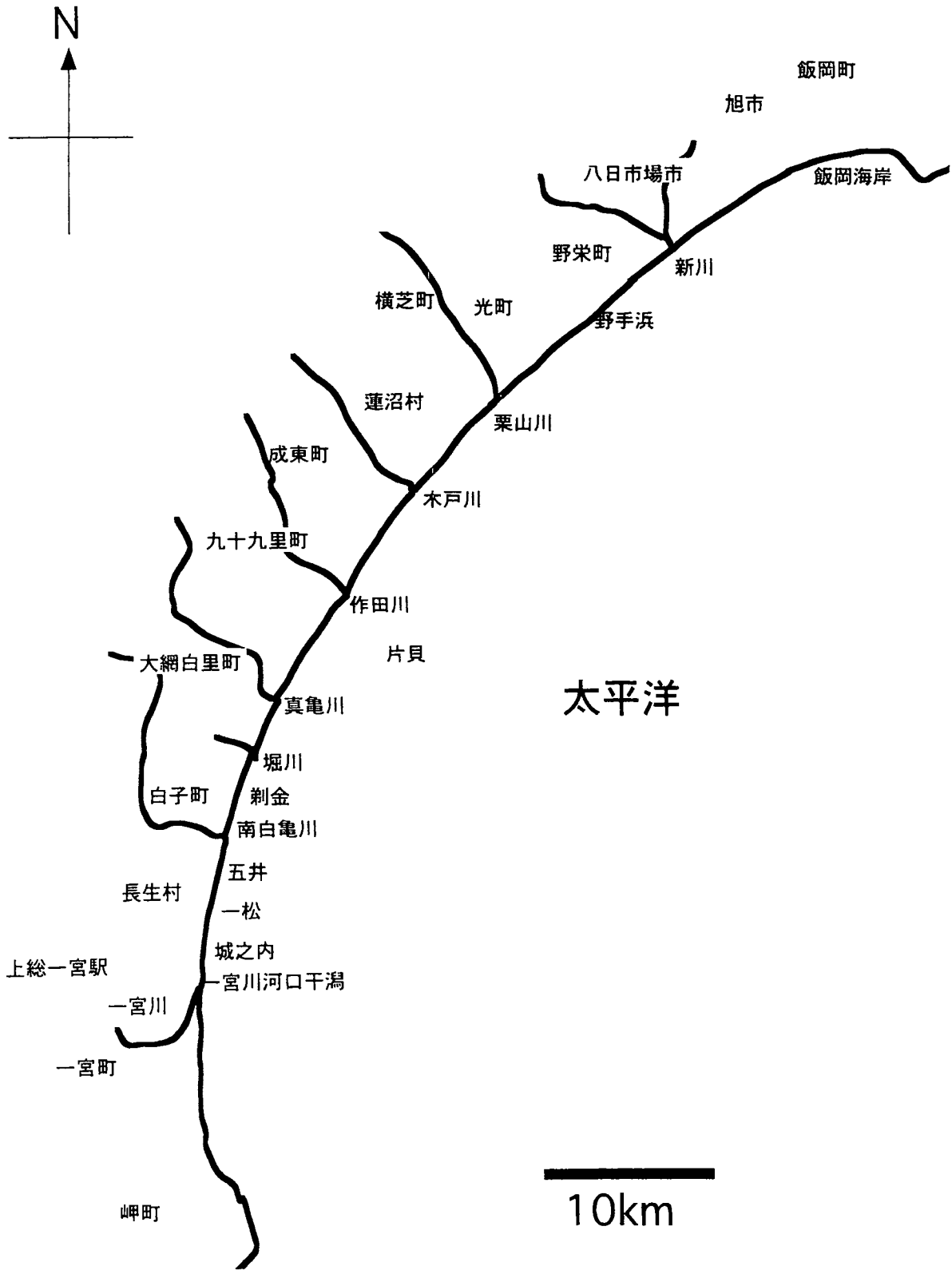


図2 九十九里浜概要図

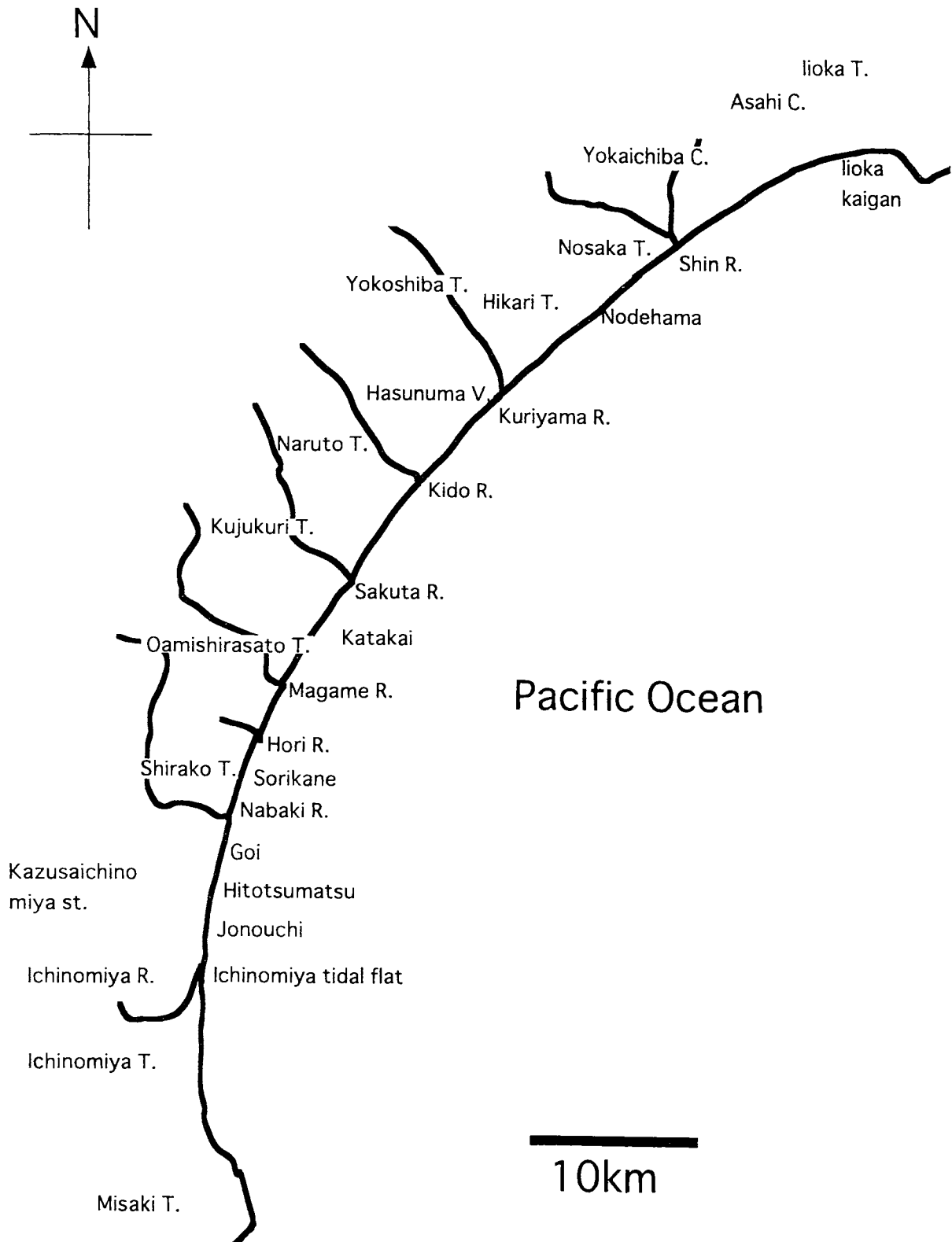


図3 Map of the Kujukuri beach

The bibliography of the birds observed in the Kujukuri beach, central Japan.

Hiroshi Misawa¹, Kazuyuki Kuwabara² and Toshimitsu Nuka³

KEY WORDS: Shorebirds, *Crocethia alba*, Sandy beach, Wetland, Alluvial plain

1 Funabashi-shi Chuo Library 3-3-1-503, Narashinodai, Funabashi, Chiba, 274-0063, Japan

2 The Natural History Museum and Institute, Chiba 955-2, Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-8682, Japan

3 Marine Biosystems Research Center, Chiba University 1, Amatsu-Kominato, Awa-gun, Chiba.
299-5502, Japan